



説教	嵐の中でささげられる祈り	崔 炳一	1
教会の課題	宣教の課題を共に担い、前進するために -近畿中会の課題-	有賀 文彦	2
旧約聖書に聴く	現代に何を語るか ダニエル書 (10)	古賀 清敬	3
■	天皇の代替りについて考える(2) 天皇の代替り儀式の歴史	糸 広国	4
目次	教会、この地とともに⑩ 近江草津伝道所 近江草津伝道所開設30周年を越えて	尾崎 彰	5
■	三浦綾子の生涯と作品について (9) 愛の証しの文学 『海嶺』～ハジマリニカシコイモノゴザル	森下 辰衛	6
	み言葉に照らされて 無条件の愛を知る時、強くなれる	柴田由起子	7
	こいのにあ 信徒の訓練のために (聖書と教理の公開講座報告)	渡辺 聡子	7
	地域的交わりの充実から (東京中会教職者会の報告)	小野寺ほさな	8
	教会ニュース		8



嵐の中でささげられる祈り

イエスは言われた。「なぜ、怖がるのか。まだ信じないのか。」

(マルコによる福音書4章40節)

チェ ビヨン イル
崔 炳 一

いつも平穏ではないのが私たちの現実です。それは主イエスがともに乗っておられた船が突然の嵐に見舞われることとやや似ています。虚しさもあり、不条理もあり、ときには神の存在を疑うことも、私たちの信仰が試されることもあります。神を信じればすべてがよい方へと向かうと思うことは迷信に過ぎないのです。しかし、私たちはこれが信仰だと思いついて入っているのです。もし、信仰が平安を作り出すのであれば、主イエスは苦しみをうける必要があったのでしょうか？主イエスの苦しみを考えるとき、そこには神の善と神の力がはっきり現れていることが分かります。良いものとして創造された世界ですが、現実には様々な悪の働きがあります。にもかかわらず創造主であり、救い主である神は力をもって世界を導いてくださるのです。それが嵐の中での主イエスのお働きでした。

しかし、弟子たちは「先生、わたしたちがおぼれてもかまわないのですか」(38節)と叫ぶのです。死にそうになったのではないのでしょうか。あるいは船が転覆しそうな状態だったかもしれません。絶体絶命の瞬間。手を打つこともできない瞬間。私たちのすべてが無になる瞬間。これまで幾度も経験してきたと思います。そういうときにできることは、ただ、主に向かって叫ぶことのみです。その叫びは真心から救いを求め、神の導きとその善を求める切なる祈りです。

すると主イエスはことばを用いて湖を静められたのです。悪魔に誘惑を受けられるとき、また人間の病を癒されるときと全く同じです。ことばで世界を造られた神だからこそ、ことばで嵐を静められるの

です。弟子たちは「いったい、この方はどなたなのだろう」(41節)と互いに話し合いました。これは疑いです。弟子たちのように主イエスを、今の苦しみや混乱から抜け出す知恵や力を与える方、あるいは食べ物に困ったときに食べ物を与える方だと考えていますが、主イエスは超能力者ではないのです。弟子たちが「非常に恐れた」のは、主イエスへのまことの信仰が欠けており、主イエスを単に超能力者として見ていたことに起因するのではないのでしょうか。

主イエスは「なぜ怖がるのか。まだ信じないのか」(40節)と言いながら、嵐を静められたのです。混沌を根源から新たに造り変える方が主イエスです。造り変えることのできる方だから、すべての混沌に打ち勝つ方です。真の平和と正義を作り出す方です。命を新しく造り、命を与え、正しい道を作り、歩ませる方が主イエスです。これが主イエスによる創造であり、「シャローム」です。救いは命の創造であり、平安に満ちた新たな生き方が与えられ、秩序が整えられることです。

創造主なる神、救い主なる神がともにおられるところにも、嵐のような悪や不条理は絶えません。そこで私たちに許されているのは創造主・救い主なる神への祈りなのではないのでしょうか。悪や不条理の中にあっても神は信仰者を決して見捨てることはないという確信が祈りです。主イエスを起こすことも祈りであり、それは確かな信仰です。キリストの救いによる信仰は沈黙ではなく、また黙らせられないのです。信仰による嘆きを黙らせる力は神以外にはないのです。信仰は嘆きあう「シャローム」を確信させるとこへと導くのです。(長崎伝道所牧師)